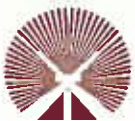


# 若竹

第五十八号



愛媛県神道青年会 再発足四十周年奉告祭



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

## 愛媛県神道青年会

事務局 〒793-8555

愛媛県西条市西田甲 797

石鎚神社内

TEL 0897-55-4044

FAX 0897-55-7242

URL <http://www.ehimeshinsei.net/>

# 巻頭言

## 新年度の挨拶

愛媛県神道青年会

会長 長曾我部 信弥



先ず以て、聖寿の方歳と皇室の弥栄をお祝い申し上げますと共に、各社頭の隆昌を祈念いたします。

昨年三月十一日に発生いたしました、東日本大震災に依る義捐活動には、皆様方それぞれの御立場で物心両面に渡り、活動をなされておることかと思えます。

当会といたしましても、全国青年会組織である神道青年全国協議会との連絡を密にし、あらゆる支援活動を模索しながら行動を起こしてまいる処でございますので、今後の活動に是非ご支援ご協力を戴きたいと

思います。

さて、平成二十三年度もお陰をもちまして、例年同様、県内各社宮司様より過分なるご寄付を頂戴し、そしてなにより、会員皆様方の積極的なご参加を戴き、諸活動が滞りなく為し終えましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、恒例の氏子教化育成を主とする『観月神楽の夕べ』を始め、青少年育成事業である幼稚園或いは保育園での『慰問神楽』の奉仕等、恒例となりました事業もお陰をもちまして、心も伴って継承しておる処で御座います。

さて我々神職は、地域の中心である神社に奉仕する者として、地域の安全を祈り、地域の繁栄を祈るという大きな役割を果たすと共に、皇室の弥栄・国家の繁栄を祈る重要な役割を果たしてまいりました。しかし、急激な過疎化、或いはマンシヨンなどの集合住宅の多様化などにより、氏神離れ・氏子意識の希薄化が際だつて目につくことが多くなつてきたことは、申し上げるまでも御座いませぬが、これらを含めた諸課題を打開する為にも神社界が当面する、或いは中長期的な諸課題について、青年会らしい新たな発想を以て目指す姿を描き、その実践の為に何をすべきか、何ができるのかをよく考えその上で具体的に行動し、

百年後の日本の発展繁栄に結びつく活動を、本年度も引き続き展開してまいりたいと考えております。今後共、ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

結びに、本誌面を拝読していただいた皆様とご家族のご健康を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

※五歳になる長男が幼稚園から持ち帰った所謂『福沢心訓』を添えておきます。

### 「福沢諭吉心訓」

一、世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事です。

一、世の中で一番みじめな事は、人間として救済のない事です。

一、世の中で一番さびしい事は、する仕事のない事です。

一、世の中で一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事です。

一、世の中で一番悪い事は、人の為に奉仕して決して恩にきせない事です。

## 新年正式参拝 研修会・互礼会報告

新年の賑わいも一段落した一月十六日、会長以下役員九名で愛媛県護国神社へ参向し、年頭の正式参拝を戴き、その後「新年研修会・新年互礼会」を国際ホテル松山で開催しました。

新年研修会では、国際ホテル吉長主任で、日本ホテルレストラン協会和食テーブルマナー講師でいらつしやる山光いずみ氏を講師に迎え、「テーブルマナー和食編」と題し、会席料理を中心に、日本料理の歴史や特徴、テーブルマナーなどをご指導戴きました。

昨今の冠婚葬祭や会食などの席に多く用いられる会席料理は、江戸の中期に「本膳料理」と「茶懐石」を、厳格な作法に囚われず寛いで食せる様に酒宴向きに考案されたもので、最も馴染みのある日本料理であります。新鮮な食材を用い、素材の風味を最大限に活かし、季節感にあふれ、器や盛り付けなどにも趣向を凝らしている日本料理の特徴を見ることが出来ます。

中でも「吸物」は、味・香り・見た目の三点を楽しむ品で、料理人の高い技術や美観が要求される「腕の見せ所」とのことです。



しかし、いざ会食ともなれば、食事や会話に夢中になり、料理人の心に気づかない事もあります。これでは折角の料理も台無しです。真心の籠ったおもてなしの心を感じず、より美味しく戴くためにも正しい作法を身につけておくことも必要です。

そこで、参加者全員が実際に汁椀を手にして、「椀蓋の開け方」もご指導戴きました。正直なところ、案外わかっていなかった作法やマナー、間違った知識からなる自

己流儀の多さに気づかされ、会食の機会が多くある我々青年会員にとっては、大変有意義なものになりました。ご指導を賜りました山光先生に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

研修会に引き続き、研修の成果を発揮できる？新年互礼会を、隣接する南館においてご来賓七名の御臨席のもと、盛大に行われました。

ご来賓を代表され、ご挨拶を賜った県神社庁長 十亀興美様は当会二代目会長を務められたこともあり、再発足当時から変わってきた現代の世相について、「正に、物に満たされ心が荒ぶ」と、仰せられた言葉が忘れられませんでした。

東日本では、今なお災害に苦しむ人々が大勢おられます。また、阪神淡路大震災から十七年となりました。平成二十四年という年でみれば、本会の再発足四十周年はいうまでもなく、沖繩本土復帰が奇しくも四十年、更に古事記編纂より千三百年を数えます。単なる偶然なのか、それとも必然なのか・・・。

私には、天津神・國津神・八百萬の神々のお導き、「今一度、原点に立ち返りみよ」とのお言葉を賜ったように思えてなりません。

《高橋政裕》

# 慰問神楽

平成二十四年二月二十三日、恒例行事であり十五回目を数える慰問神楽を、新居浜市八幡のミドリ保育園に於いて開催致しました。

園児の皆さんが作っていただいた感想が記載されたポスターと、心のもったお手紙を頂いておりますのでここに掲載致します。



## 神道青年全国協議会 東日本大震災物故者慰霊祭

平成二十三年三月十一日 午後二時四十分東北沖を震源とするマグニチュード九のかつてない大地震が東日本を襲い、一万五千名を超える尊い命が失われ、未だ三千名近い同胞が行方不明となっています。その日から約一年が過ぎてもまだまだ復興へ向けた道筋は見えていません。しかしながら青年神職として出来る事、日本人として

かくらを見させてくれて  
ありがとうございました。  
えてんぶがすごみです  
おろちのまのあとのおもひが  
おもしろかったです。  
またかくらを見させてください。  
わたしたちもけんきにがんばるの  
で、かくらのみなさんにもけんきで  
いてください。



《ミドリ保育園児》

やらなければならない事はたくさんあります。だからこそ、神青協も大野会長を中心として、時代に即応した行動を行っているのです。

まだまだ震災の爪痕が深く残る、岩手県釜石市の根浜海岸において、三月十日午前十一時より神青協主催の「東日本大震災物故者慰霊祭」が斎行されました。当日は浜辺である為、時折強風が吹き、また雪が舞い散る中ではありましたが、全国各地より百名近い会員が参集し、岩手県神社庁西館庁長様始め地元の方々も参列頂き、斎主は神青協・南坊城光興副会長、副斎主に岩手神青・山下 明顧問、また全国各地から祭員を一名ずつ選出し、心を込めての慰霊祭奉仕となりました。(四国地区からは高知神青の大久保干逸理事が奉仕)

慰霊祭では、不慮も尊い命を失われた方々への御霊和めの祈りと、これからの一日も早い復興を祈念し、大祓詞を三巻、並びに祭詞奏上。大野会長以下参列者各位が玉串を手向け慰霊の誠心を捧げ、慰霊祭の納めとなりました。

私は慰霊祭後に地元の方(女性)とお話しする機会がありました。この方は息子さん津波に流され命を失ったそうです。お話を聞く内に胸が締め付けられる思いがしました。しかしながら、言葉の中に「今は



前を見て生きていく」という思いをしつかりと感じ取る事ができました。最後に「このような慰霊祭をして頂いて、本当にありがとうございます」との言葉を頂き、こみ上げる涙をこらえる事ができませんでした。

我々の住む愛媛から見た東日本は遠く感じるか、近く感じるか。同じ日本人として同胞として、この地からできる事は何なのか？我々ができる支援活動とは何なのか？今一度見つめ直す事が必要と感じました。四国もそう遠くない時代に「南海地震」が起こると言われています。四国は周りを海に囲まれた島国です。一度地震が起これば、しまなみ海道も瀬戸大橋も鳴門海峡大

橋も通行できるかわかりませんし、港も瓦礫で埋め尽くされ船が着岸できないかも知れません。そんな時にこそ必要なのがネットワークであり、お互いの信頼だと思っています。今後は中国地区や近畿・九州地区とも普段から連絡を取り合い、信頼関係を構築していく事も必要だと感じました。

東日本にはまだまだ支援活動が必要です。神青協としても被災神社への支援活動など多岐に渡り行動して参りますので、愛媛神青の会員もご協力をお願い致します。

四国地区 会長  
愛媛神青 監事 十亀 博行

### 神道青年全国協議会 中央研修会 ～福井～

平成二十四年三月二十二日～二十三日の二日間にわたり、平成二十三年度神道青年全国協議会中央研修会が開催され、当会からは十二名が参加しました。今回の研修は、北陸神道青年協議会主管、福井県神道青年会担当のもと、『立志』～一人ひとりが、今、なすべきことの道標として～を主題として開かれました。

福井県での中央研修会は昨年三月に開催予定でしたが、直前に発生した東日本大震災の影響で中止され、今回の開催となりました。初日の開講式に先立ち黙祷が捧げられ、被災地での神青協の活動などがスクリーンに映し出されました。また、会場のロビーでは被災地の神社の様子などが写真パネルで展示されていました。

さて、研修は開講式後に第一講「激動する国際情勢と日本」と題し、杏林大学名誉教授・田久保忠衛先生の講演がありました。先生が時事通信社勤務時代に国際情勢を取材する中での経験を基に、国際情勢の把握には、歴史の大きな流れと、現在の国家間の関係を大局的に捉える必要があることを述べていました。



また、現在の国際情勢については、EU・中東・アジアについて触れ、アジアについてはとりわけ中国の動向について解説があり、その意図や目的などの全体像を把握した上での対応をとる必要性があることを述べていました。

その上で、我が国が諸外国と対峙しているためにも、憲法改正の必要性と国防を大事にしなければならないことを強調していました。

第二講は「二千年国家の誕生」と題し、(株)独立総合研究所代表取締役社長兼首席研究員・青山繁晴先生の講演がありました。先生は北朝鮮による拉致事件解決のためにも積極的に携わっていますが、この問題が未だに解決しない原因として、我々国民



一人一人にも責任があることを指摘しました。北朝鮮に乗り込んででも被害者を取り返しに行かないことを、ただ政治家に責任を押しつけて批判ばかりをするのではなく、占領下の政策を受け入れ、それを今日まで容認してきた我々国民一人一人にも大きな責任があり、目覚めなければならぬことを述べていました。

先生の講演は、予定より一時間近く延長してお話いただきましたが、自らの体験談を交え、熱のこもった貴重なお話でした。

第二講終了後には、同会場にて懇親会が行われ、全国の同志との懇親を深めました。

二日目第三講では、産経新聞東京本社編集局政治記者の阿比留瑠比先生より、「永田町から日本の未来を憂ふ」と題しての講演がありました。民主党政権の約二年半がいかに酷いものであるかを、震災当時の対応をはじめ、いくつもの事例を挙げて解説がありました。また、いわゆる「女性宮家」の問題についても問題点を列挙し、危惧を示しました。その上で、誰が政権を取っても同じであるということは決してなく、解散総選挙を望む旨を述べました。そして、政治家は国民の声に怯えており、日本を良くしようと思ったら、声を政治家へしっかりと届けるようにすべきである、と述べていました。



今回の研修会を通じて、日本の危機的状況を再認識したと共に、講演の先生方が共通して強調していたことは、我々が大局観をもつて確固たる見識を持ち、声をあげていかなければならないということでした。我々青年神職は、日頃から氏子や参拝の方など、様々な人と接する機会があります。そのように声を広められる立場にある我々が、日本を守るといふ強い志を持ち、それを実際に行動に移していかなければならないと強く思いました。

最後になりましたが、来年の中央研修会は神道青年四国地区協議会主催で、高知県神道青年会担当にて開催されます。今回の一日目の懇親会終了後、四国地区の会員が集結して決起集会を開きました。



### 再発足四十周年奉告祭 第四十一回定時総会報告

集会では、翌日の閉講式の中で行われる、次回研修会のPRの打合せと練習を行うとともに、来年の中央研修会の成功を願い、一致団結と懇親を図りました。そして、二日目の閉講式の中で、十亀博行神道青年四国地区協議会会長の挨拶の後、吉川八尋高知県神道青年会会長はじめ、当県会員も含めた四国地区の会員がPRを行いました。  
次回の中央研修会が成功するよう、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。  
《後藤正幸》

去る、四月二十五日(水)、愛媛県神社庁神殿に於いて、愛媛県神道青年会再発足四十周年奉告祭並びに第四十一回定例総会が執り行われました。  
再発足四十周年記念事業の一環として齋行された奉告祭では、愛媛県神社庁副庁長の井上千賀司様を始め四名のご臨席を賜り、斎主を務めた田内逸知副会長の下、祭員六名、佯人五名が、県内の神々に奉謝を捧げました。  
奉告祭終了後には、祭主である愛媛県神

道青年会の長曾我部信弥会長が直会の乾杯発声を務め、一同これまで当会を支えてこられた先達に感謝の念を抱きつつ、これからの発展に向け決意を新たにしました。

その後、同会場において、会長以下二十四名の会員出席の下、定例総会が開会されました。総会では、

会長の挨拶の後、議長が選出され、議案審議に入りました。平成二十三年度会務報告・会計報告・監査報告、平成二十四年度活動計画案・予算案、愛媛県神道青年会再発足四十周年に関する件が審議され、すべての議案において異議なく承認され、滞りなく閉会いたしました。また、最後に、長曾我部会長より、田内逸知副会長、武智和剛さん、宇都宮宗平さんの結婚が発表され、会場はより一層和やかなムードになりました。また、私、常磐井守道も結婚の報告をさせていただきました。



閉会后、松山市内において、会員の懇親の場が設けられました。はじめに、長曾我部昭一郎監事、十亀博行監事からご挨拶をいただき、今年度行われる複数の再発足四十周年事業成功に向けて、当会が一丸となって神社界で担うべき役割についての激励の言葉を賜り、一同改めて気を引き締めました。

懇親会では、新入会員、初出席の会員からも自己紹介をして頂きました。久しぶりに会う仲間、初めて出会う仲間との話は尽きることなく、笑い声が耐えることはありませんでした。その後、十亀事務局長の中心締めにより納めることとなりました。

青年会のすばらしさは、同じ世代の仲間と知り合い、活動を共にすることで、視野



が広がることです。目標や悩みを共有し、協力し合うことは、前を向く大きな力となります。特に本年度は、愛媛県神道青年会再発足四十周年記念事業が控えています。一人でも多くの方の本会活動参加をお待ちしております。

《常磐井守道》

## 神道青年全国協議会 第六十四回 定例総会

去る四月二十七日、神社本庁二階大講堂に於いて神道青年全国協議会第六十四回定例総会が開催されました。

大野清徳会長をはじめご来賓の挨拶に続き、定例表彰式、平成二十三年度の会務報告、一般会計決算書、各種収支計算書、監査報告、さらに本年度の活動方針の説明・事業計画・予算案まで異議なく承認され最後に総会決議が上程され、満場一致で採択され閉会となりました。

本年はその後時局報告会として東北六県の会長によ



る「東日本大震災支援活動報告」があり、各県からの震災後の被災状況、活動支援状況等が報告されました。報告を聞くにつけ、一年以上経過した今でも復興への道のりは険しいと率直に感じましたが、「被災地を忘れないでほしい。忘れられてなければ復興できる」といった前向きな話を聞き、震災を風化させてはならない、と改めて決心した次第です。

最後に総会の決議文を記し総会報告とさせていただきます。

平成二十四年度定例総会決議

我々青年神職は、東日本大震災をはじめとする、様々な自然災害への対策や復興支援活動を継続的に展開すると共に、古事記編纂千三百年の節目を道義国家再生への好機と捉へ、我が国を取り巻く憂慮すべき諸問題に対し、積極果敢なる活動を推進し、更に明年迎へる第六十二回神宮式年遷宮の啓発・参宮促進活動にも鋭意取り組み、以て美はしい國體の精華を發揚せん事を期す。

右、決議する。

平成二十四年四月二十七日

神道青年全国協議会  
第六十四回定例総会

《清家貞文》



平成二十三年 度 会務報告

起 平成二十三年 四月 一日  
至 平成二十四年 三月 三十一日

平成 一 年

四月 七日 平成二十一年度会計監査会

【伊豫豆比古命神社】

十二日

(十亀前会長以下五名出席)  
第一回 役員会

【石鏡神社】

二十七日

(長曾我部会長以下十名出席)  
神道青年全国協議会 第六十三回定例総会

【神社本庁】

五月 三日

(長曾我部会長以下四名出席)  
愛媛県教科書改善協議会第三回役員会

【みゆき会館】

九日

(長曾我部会長以下十三名出席)  
第二回 役員会

【国際ホテル松山 パールの間】

全

(長曾我部会長以下二十一名出席)  
第四十回 定時総会

【全 ルビーの間】

全 懇親会

【全 離宮の間】

二十六日

《十亀庁長他御来賓八名御出席》  
(長曾我部会長以下二十一名出席)  
神道青年四国地区協議会 第一回 役員会

【香川県】

六月 一日

(長曾我部会長以下五名出席)  
会報「若竹・第五十六号」発行

【八幡神社】

六日

第三回 役員会

【神社庁】

十六日

(長曾我部会長以下九名出席)  
愛媛県神社庁 第二回 定例協議委員会

【みゆき会館】

二十一日

(長曾我部会長出席)  
日本会議愛媛県本部 総会

七月 四日

徳島県青年神職会創立六十周年記念大会

【徳島県 徳島ワシントンホテルプラザ】

物故会員慰霊祭

記念式典

記念講演

演題「封印された近現代史と安全保障」

講師 軍事ジャーナリスト

井上 和彦 先生  
祝宴

五日

(長曾我部会長以下二名出席)  
女子神職会 第二十三回 定時総会

【神社庁】

二十五日

(田内副会長代理出席)  
神道政治連盟愛媛県本部 代議員会

【国際ホテル松山】

全

愛媛県議会議自由民主党神道議員連盟 設立総会

【全】

二十七日

(長曾我部会長出席)  
第四回 役員会

【吹揚神社】

二十八日

(長曾我部会長以下九名出席)  
愛媛県教科書改善協議会第三回役員会

【みゆき会館】

八月 二日

(長曾我部会長出席)  
神道青年四国地区協議会

【愛媛縣護國神社】

三日

第十七回 定例総会並びに研修会  
正式参拝

【国際ホテル松山】

研修会『日本の未来』

【全】

講師 明星大学戦後教育史研究センター  
勝岡 寛次 先生

講師 松前町立岡田中学校 教諭  
大津寄 肇三 先生

(長曾我部会長以下十八名出席)  
野外体験親睦会

【松山市 奥居島】

八月 三十日

(長曾我部会長以下二十八名参加)  
神道青年全国協議会 夏期セミナー

【國學院大学】

三十一日

【教育】『道徳教育の再興に向けて』  
第一講「今なぜ「ならぬことばならぬ」か」  
『二十一世紀を生きる日本』

講師 會津藩校 日新館 館長  
宗像 精 先生

第二講「日本人が自信と誇りを持てる教育を目指して」  
講師 前衆議院議員  
萩生田 光一 先生

第三講 実習「家訓づくりプログラム」  
公益社団法人 日本青年会議所

九月 二日	次世代社会創造グループ 徳溢れる心齋成会議 (長曾我部会長以下四名出席) 初詣啓発ポスター発送作業 (長曾我部会長以下十名参加) 第五回 役員会 (長曾我部会長以下十名出席) 神道青年四国地区協議会 第十四回 神道行法鍊成会 (長曾我部会長以下六名出席) 神道青年四国地区協議会 第二回 役員会 (長曾我部会長以下五名出席) 第二十九回 観月神楽の夕べ (長曾我部会長以下十一名参加) 【南宇和郡 諏訪神社宮司 石村 聖様】 【高知県】	【石鐘神社】 【全】 【高知県 三嶋神社】
三十日	愛媛県教科書改善協議会総会及び講演会 建国記念の日奉祝愛媛県実行委員会・日本会議愛媛県本部 合同運営委員会 (長曾我部会長出席) 愛媛県神社庁定例協議員会 (長曾我部会長出席) 第二十八回 役員会 (長曾我部会長以下十二名出席) 三島森田両烈士追悼四十一周年慰霊祭 (田内副会長以下八名奉仕長曾我部会長以下十三名参加) 第七回 役員会 (長曾我部会長以下十名出席) 建国記念の日奉祝愛媛県実行委員会 総会 (長曾我部会長出席) 神道青年四国地区協議会 第三回 役員会 (長曾我部会長以下六名出席) 神道青年四国地区協議会 第七回親睦ボウリング大会 (長曾我部会長以下六名出席)	【みゆき会館】 【全】 【愛媛県神社庁】 【和霊神社】 【愛媛縣護國神社】 【愛媛縣護國神社】 【みゆき会館】 【徳島県】 【ラウンドワン】
十二月 二十九日	十二月二十五日	【愛媛縣護國神社】

平成 二十四年 一月 一日	会報「若竹・第五十七号」発刊 年頭正式参拝 (長曾我部会長以下十名参拝) 第八回 役員会 (長曾我部会長以下十二名出席) 新年研修会 演題 マナー講座Ⅳ テーブルマナー・和食編 講師 国際ホテル吉長主任 山光 いずみ先生 (長曾我部会長以下二十名出席) 新年互礼会 《十亀庁長以下御来賓七名御出席》 (長曾我部会長以下二十八名出席) 慰問神楽 (長曾我部会長以下十六名参加) 第九回 役員会 (長曾我部会長以下七名出席) 神道青年全国協議会 中央研修会 《立止》 一人ひとりが、今、なすべきことの道標として 第一講「激動する国際情勢と日本」 講師 杏林大学名誉教授 法学博士 田久保 忠衛 先生 第二講「二千年国家の新生」 講師 (株)独立総合研修所 代表取締役社長兼首席研究員 青山 繁晴 先生 第三講「永田町から日本の未来を憂う」 講師 産経新聞東京本社 編集局政治部記者 阿比留 留比 先生 (長曾我部会長以下十二名出席) 会計監査会 (長曾我部会長以下四名出席)	【愛媛縣護國神社】 【国際ホテル松山 パールの間】 【ルビーの間】 【全 伊予の間】 【新居浜市 ミドリ保育園】 【石鐘神社】 【ホテルフジタ福井】
三月 二十一日	三月二十三日	【ホテルフジタ福井】
四月 十二日		【伊豫豆比古命神社】

皆様方に御協力を賜り会務が遂行出来ました事に深謝致します  
会長 長曾我部 信球

愛媛県神道青年会  
平成23年度一般会計歳入歳出決算書

(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

歳入の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付記
1 会費	700,000	710,000	10,000	年会費・定時総会々費・新年互礼会々費他
2 助成金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄付金	1,230,000	1,698,000	468,000	県内神職寄付金・諸事業援助金
4 雑収入	411	610,000	609,589	事業収入(床几33脚・盛壇器15個)・預金利息
5 繰越金	819,589	819,589	0	平成22年度より
歳入合計	2,950,000	4,037,589	1,087,589	

歳出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付記
1 会議費	700,000	497,635	△202,365	定時総会・役員会・新年互礼会・地区協議員会・監査会他
2 研修教化	800,000	630,620	△169,380	観月神楽・鬼問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事業費	220,000	579,030	359,030	初詣啓発ポスター/床几/盛壇器作製費
4 広報費	300,000	303,850	3,850	若竹56号/57号作製費及び発送費
5 事務費	120,000	116,522	△3,478	事務用品・寄付金其の他振替手数料
6 備品費	10,000	17,925	7,925	ホームページビルダー購入
7 旅費	400,000	300,000	△100,000	神青協総会・神青協役員旅費補助
8 慶弔費	40,000	61,438	21,438	慶弔費・電報代
9 分担費	280,000	271,000	△9,000	神青協及び地区協賛出金・各種友好団体年会費
10 交通費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑支出	10,000	600,000	590,000	東日本大震災復興支援基金へ50万繰入(平成24年度中研関係県助成金)
12 予備費	20,000	0	△20,000	
歳出合計	2,950,000	3,428,020	478,020	

歳入合計 ￥4,037,589

歳出合計 ￥3,428,020

差引残高 ￥609,569

愛媛県神道青年会 会長 長曾我部信弥 提出 印

平成24年4月12日 愛媛県神道青年会役員会提出  
上記の通り相違ない事を認めます。

平成24年4月12日  
監事 長曾我部 昭一郎  
監事 十亀 博行

# 平成二十四年度 活動計画

四月 十二日	平成二十三年度会計監査会	【伊豫豆比古命神社】
二十五日	第一回 役員会	【愛媛県神社庁】
全	再発足四十周年奉告祭	【全】
全	第四十一回 定時総会	【全】
二十七日	神道青年全国協議会	【神社本庁】
	第六十四回定例総会	
五月	第二回 役員会	
六月 一日	会報「若竹・第五十八号」発刊	
六月 七日	神道青年四国地区協議会	
	第一回役員会	
六月 十二日	再発足四十周年記念事業	
十三日	沖繩県「愛媛之塔」慰霊祭	【愛媛県】
六月	第三回 役員会	
七月	第四回 役員会	
八月 六日	神道青年四国地区協議会	
七日	第十八回 定例総会並びに研修会	【徳島県】
八月 二十一日	野外体験親睦会	
八月	神道青年全国協議会	
九月 四日	平成二十四年度 夏期セミナー	【神社本庁】
九月 五日	神道青年四国地区協議会	
	第十五回 神道行法錬成会	【香川県】
	神道青年四国地区協議会	
	第二回 役員会	【香川県】

九月 二十七日	再発足四十周年事業	【国際ホテル松山】
九月下旬	記念式典・記念講演・祝賀会	
九月下旬	初詣啓発ポスター発送作業	【愛媛県神社庁】
九月	第五回 役員会	【愛媛県神社庁】
九月	第三十回 観月神楽の夕べ	【愛媛県神社庁】
十月	第六回 役員会	
十一月 二十五日	第七回 役員会	
十二月	全	
	三島森田両烈士追悼四十二周年慰霊祭	
	神道青年四国地区協議会	
	第三回 役員会	【高知県】
	第八回 親睦ボウリング大会	
一月 一日	会報「若竹・第五十九号」発刊	
一月	第八回 役員会	【国際ホテル松山】
一月	臨時総会・新年研修会・新年互礼会	【全】
二月	第九回 役員会	
三月 十三日	神道青年全国協議会	
三月 十四日	平成二十四年度 中央研修会	【高知県】

●その他、役員会にて議案審議

- ※(日時未定) 慰問神楽
- ※(日時未定) 明成社版『最新日本史』高校教科書採択推進活動
- ※時局問題への即応
- ※再発足四十周年記念事業(仮称)「愛媛の神々」・「記念誌」冊子作成

愛媛県神道青年会  
平成 24 年度一般会計歳入歳出予算書 (案)

自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日

歳入の部

単位：円

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1 会 費	700,000	750,000	50,000	年会費・定時総会々費・臨時総会々費・新年互礼会々費
2 助 成 金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄 付 金	1,230,000	1,290,000	60,000	県内神職寄付金
4 雑 収 入	411	431	20	預金利子他
5 繰 越 金	819,589	609,569	△210,020	平成 23 年度より
歳入合計	2,950,000	2,850,000	△100,000	

歳出の部

単位：円

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1 会 議 費	700,000	600,000	△100,000	定時総会・役員会・新年互礼会・地区協役員会・臨時総会・監査会他
2 研 修 教 化	800,000	800,000	0	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事 業 費	220,000	200,000	△20,000	初詣啓発ポスター頒布事業
4 広 報 費	300,000	300,000	0	若竹 58 号 / 59 号作製費及び発送費
5 事 務 費	120,000	120,000	0	事務用品・寄付金其の他振替手数料
6 備 品 費	10,000	10,000	0	
7 旅 費	400,000	400,000	0	神青協定時総会 / 臨時総会・神青協役員旅費補助
8 慶 弔 費	40,000	50,000	10,000	慶弔費・電報代
9 分 担 費	280,000	280,000	0	神青協及び地区協醸出金・各種友好団体年会費
10 交 通 費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑 支 出	10,000	10,000	0	
12 予 備 費	20,000	30,000	10,000	
歳出合計	2,950,000	2,850,000	△100,000	

歳入合計 ￥2,850,000

歳出合計 ￥2,850,000

差引残高 ￥0

平成 24 年 4 月 12 日 愛媛県神道青年会役員会提出

平成二十三年度 助成寄付御芳名

※順不同にて掲載させて頂いております

御助成

金貳拾萬圓也

愛媛県神社庁 殿

御寄付

【東予】

金壹拾萬圓也

石鏡神社

十亀 興美 殿

金伍萬圓也

大山祇神社

三島 喜徳 殿

三島神社

大西 元宣 殿

金參萬圓也

一宮神社

矢野 哲夫 殿

神社庁

新居 支部 殿

金壹萬伍仟圓也

今宮神社

佐藤伊都男 殿

金壹萬圓也

石岡神社

越智 基晃 殿

八幡神社

竹内 光彦 殿

村山神社

榊田嘉津雄 殿

堀江神社

合田 千里 殿

玉生八幡神社

平田 彰 殿

嘉母神社

石川雅司郎 殿

櫛本神社

石川 漢見 殿

周敷神社

井上 初美 殿

熊野神社

田邊 捷 殿

荒木八幡大神

松本 恒夫 殿

高尾神社

玉井 忠素 殿

大井八幡大神社

櫛部 浄文 殿

吹揚神社

田窪 久 殿

綾延神社

森 正康 殿

白山神社

大岡 益子 殿

萩岡神社

大岡 忠臣 殿

三嶋神社

越智 静治 殿

高浜八幡神社

龜山 和麿 殿

三島神社

垂水 隆昌 殿

風伯神社

大野 一郎 殿

宇佐八幡神社

松木 正述 殿

須賀神社

藤原 韶博 殿

大島八幡神社

矢野 秀綱 殿

大浜八幡大神社

桧垣 壮次 殿

潮早神社

浅海 宜英 殿

姫坂神社

沼崎 守文 殿

多伎神社

沼崎 守文 殿

生名八幡神社

西村 純子 殿

別宮大山祇神社

高田 康成 殿

磐座八幡大神社

藤原 修次 殿

金八仟圓也

大西神社

及川 徹也 殿

金伍仟圓也

喜多浦八幡大神社

馬越 祥穂 殿

八幡大神社

安藤 潔 殿

奈良原神社

竹之内紀久江 殿

八幡宮

合田 正士 殿

碓掛天満宮

小池 清史 殿

橘八幡大神社

馬越 將文 殿

保内八幡神社

中島佳代子 殿

盛八幡大神社

高橋 幸意 殿

宗方八幡神社

岡田 篤人 殿

金參仟圓也

土居神社

矢野耕一郎 殿

弓削神社

川原啓三郎 殿

【中予】

金壹拾萬圓也

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭 殿

金伍萬圓也

愛媛縣護國神社

小川 純生 殿

金參萬圓也

神社庁

松山 支部 殿

殿島神社

柳原 宰 殿

伊豫稻荷神社

星野 暢廣 殿

金壹萬圓也

桑原八幡神社

石丸 剛司 殿

還熊八幡神社

玉井 次明 殿

雄郡神社

高市 誠司 殿

正八幡神社

重松 信篤 殿

忽那島八幡宮

大宮 信篤 殿

勝岡八幡神社

武智 輝子 殿

高縄神社

正岡 重岩 殿

波賀部神社

武智 彰宏 殿

井手神社

横田 貞子 殿

伊佐爾波神社

野口光比古 殿

日吉神社

都子野清彦 殿

三嶋大明神社

大内 正人 殿

國津比古命神社

井上 忠史 殿

三島神社

高市 誠 殿

伊曾能神社

武市 盛幸 殿

客王神社

二神 良昌 殿

八幡神社

小野 哲也 殿

金・伍阡圓也 神社庁	松山支部 三好 捷三 殿	若宮八幡神社	山下 幸志 殿	三島神社	高市 俊次 殿	徳威三嶋宮	別府 頼房 殿	天満神社	武智 成保 殿	阿沼美神社	大内 將通 殿	當田八幡神社	額田 照彦 殿	天一稻荷神社	武智 純二 殿	三島神社	玉井 貞臣 殿	八坂神社	都築 芳憲 殿	新田神社	都築 芳憲 殿	立石神社	都築 芳憲 殿	新田八幡神社	都築 芳憲 殿	高家八幡神社	都築 芳憲 殿	三島神社	武智 仁志 殿	【南予】	金・七萬圓也	和霊神社	三輪田元亮 殿	金・參萬圓也	宇和 支部 殿	神社庁	八西支部 八幡浜分会 殿	金・壹萬圓也	宇和島支部 宇和島分会 殿	神社庁	宇和島支部 南宇和郡支部 殿	神明神社	宮本 俊孝 殿	総社大明神社	森本 隆夫 殿	大元神社	井上 正博 殿
---------------	-----------------	--------	---------	------	---------	-------	---------	------	---------	-------	---------	--------	---------	--------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	--------	---------	--------	---------	------	---------	------	--------	------	---------	--------	---------	-----	-----------------	--------	------------------	-----	-------------------	------	---------	--------	---------	------	---------

三島神社	菊地 宣之 殿	岡森神社	寺谷 秀彦 殿	三嶋神社	和氣 利雄 殿	宇都宮神社	伊達 享朝 殿	八幡神社	阿部 康茂 殿	三島神社	松浦 徳芳 殿	黄幡神社	青木 武司 殿	金・伍阡圓也	梅原 康孝 殿	明間神社	武智 盛明 殿	廣田神社	辻田 正明 殿	住吉神社	高市 節子 殿	稻荷神社	宮本 稚秋 殿	天満神社	上甲 一則 殿	賀茂神社	大川 實 殿	金・參阡圓也	金・參萬圓也	湯嶋天神社	菊池 國興 殿	金・壹萬圓也	石鎚神社	十亀 興美 殿	伊曾乃神社	井上千賀司 殿	愛媛縣護國神社	小川 純生 殿	嚴島神社	柳原 幸 殿	八幡神社	朝日八幡神社	田内 一弘 殿	伊豫稻荷神社	星野 暢廣 殿	伊豫豆比古命神社	眞鍋 豊孝 殿
------	---------	------	---------	------	---------	-------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	--------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	--------	--------	--------	-------	---------	--------	------	---------	-------	---------	---------	---------	------	--------	------	--------	---------	--------	---------	----------	---------

金・伍阡圓也	愛媛県女子神職会 殿	井手神社	横田 貞子 殿	金・壹萬圓也	愛媛県神社庁 長曾我部延昭 殿	新年互礼会 御祝	金・貳萬圓也	石鎚神社	十亀 興美 殿	八幡神社	清家 貞宏 殿	金・壹萬圓也	伊曾乃神社	愛媛県神社庁 井上千賀司 殿	愛媛縣護國神社	小川 純生 殿	嚴島神社	柳原 幸 殿	高忍日賣神社	後藤 正宜 殿	伊豫豆比古命神社	眞鍋 豊孝 殿	金・伍阡圓也	客王神社	二神 良昌 殿	慰問神案 御祝	金・參萬圓也	八幡神社	久米 謙 殿	御賛同の上御寄付を賜り深謝致します	会長 長曾我部 信雄
--------	------------	------	---------	--------	--------------------	----------	--------	------	---------	------	---------	--------	-------	-------------------	---------	---------	------	--------	--------	---------	----------	---------	--------	------	---------	---------	--------	------	--------	-------------------	------------

### 青年会御卒業

定時総会に於いて、会則により卒会の年を迎えられました先輩方をご紹介いたします。

八幡神社 禰宜 (元副会長)

阿部 茂之 様

正友神社 禰宜 (元理事)

武知 秀忠 様

正八幡神社 禰宜

重松 正健 様

森正八幡神社 禰宜

野口 信隆 様

伊豫稲荷神社 権禰宜

中岡 正之 様

八幡神社 宮司

武知 修一 様

永年に亘り当会の活動にご尽力賜りまして誠に有難う御座いました。会員一同感謝申し上げます。

今後尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に益々のご活躍をご祈念申し上げます。

### 新入会員紹介

桶新宮神社 禰宜 高橋 信史

綱敷天満神社 禰宜 菅利之

日屋八幡神社 宮司 三輪 田純

風伯神社 録事 花谷 空

以上新入会員です。

### 結婚報告

東雲神社 宮司 田内 逸知 弥生



平成二十四年三月十四日に東雲神社の大神様の大前に於いて、結婚の儀を執り行いました。

まだまだ未熟者でございますが、これから皆様ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

### 写真借用願い

愛媛県神道青年会再発足四十周年記念誌発刊予定に際し、過去の活動写真を探しております。

お持ちの方は、是非とも事務局にご一報

下さい。役員がお預かりに伺い、責任を持ってお返しに参りますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。

※十年以上前の写真・白黒写真、大歓迎

### 神道青年四国地区協議会 行事案内

○第十八回定例総会・研修会

平成二十四年八月六日(月)・七日(火)

徳島県青年神職会担当にて開催

○第十五回神道行法練成会

平成二十四年九月四日(火)

香川県神道青年会担当にて開催

詳細につきましては、HPにて随時お知らせして参ります。奮ってご参加下さい

### 神道青年全国協議会

#### 中央研修会のご案内・ご報告

平成二十四年度神道青年全国協議会中央研修会が左記の日時通り執り行われます。

【日時】

平成二十五年三月十三日(水・先負)

十四日(木・仏滅)

神道青年四国地区協議会 主管

高知県神道青年会 担当

詳細につきましては、事務局へお問い合わせ下さい。

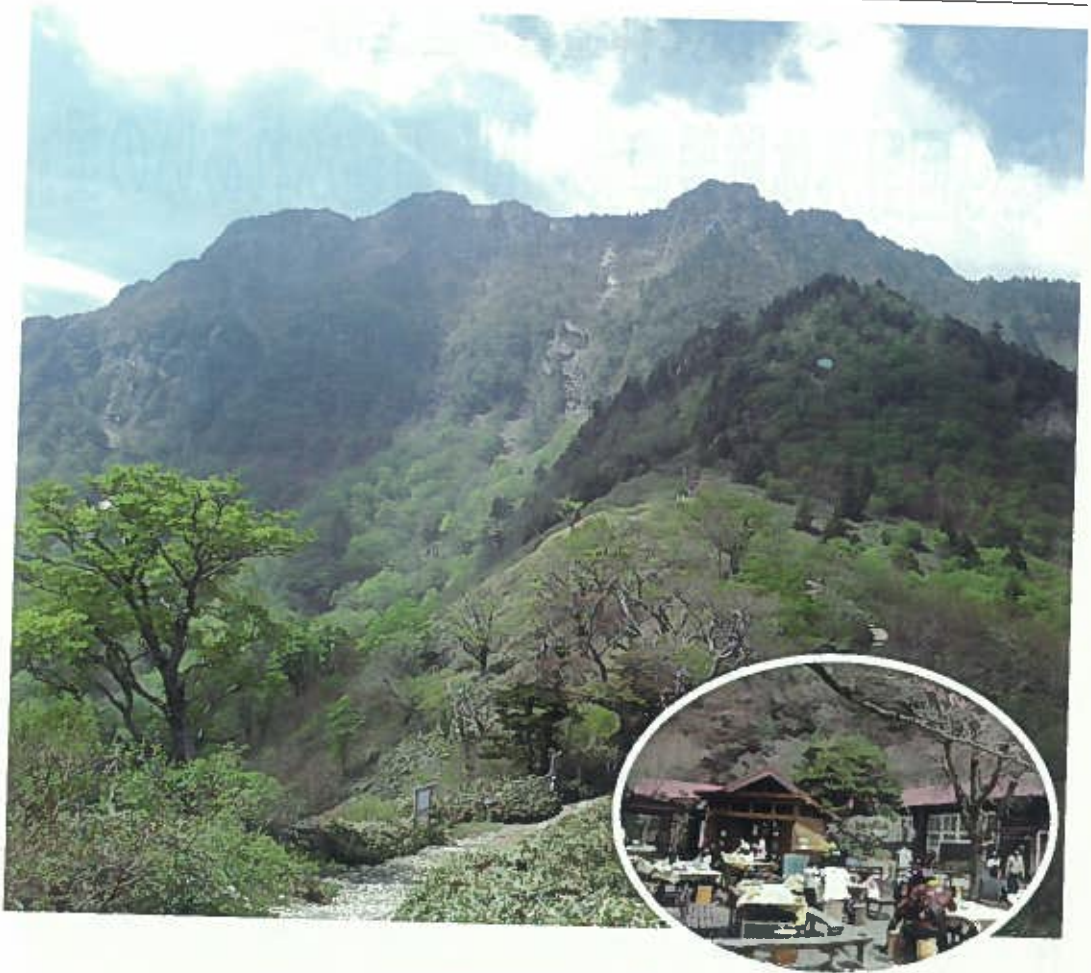


～愛媛県神道青年会主催～

『第9回野外体験親睦会 IN 石鎚ふれあいの里』

- 【と き】 平成24年8月21日(火・仏滅)
- 【と ころ】 西条市中奥1号25-1 石鎚ふれあいの里
- 【趣 旨】 大自然にふれ、会員相互の親睦はもとより、会員家族子弟を含めた親睦を深めることを目的とする。
- 【参加資格】 愛媛県神道青年会役員・会員・OB・またその家族・子弟、当県神社界に携わる者。
- 【概 要】 8月21日 集合時間午前9時を目安に**現地集合**  
日帰りプランとなります。
- 【注意事項】 会費を超える予算の取扱いについては参加者全員での分担となりますことをご理解ください。なお、開催地までの交通費は自己負担となります。
- 【参加経費】 参加費未定 目安は大人1人2,000円 小学生以下1,000円程度
- 【そ の 他】 愛媛県神道青年会主催ではありますが参加者全員で作り上げる行事ですので、皆様の寛大な心でのご協力をお願い申し上げます。
- 【参加申込】 締め切り日は 7月20日 (お早めにお申し込みを)  
下記のFAX用紙にて申し込みください。  
FAX 0897-55-7242 石鎚神社 矢野忠臣宛
- 【お問い合わせ】 愛媛県神道青年会 矢野忠臣 0897-55-4044 (石鎚神社)

\*台風、災害等、安全確保出来ない状況の場合は中止とさせていただきます。  
\*当日の催し物は、バーベキュー・川魚観察など計画しております。その他リクエストがございましたら、申込用紙にお書き添えください。



平成 24 年度愛媛県神道青年会主催  
第 9 回野外体験親睦会 in 石鎚ふれあいの里 参加申込書

申込日 平成 年 月 日

代表者住所	(〒 ) 愛媛県						
ふりがな 代表者氏名	男	昭和	年	月	日生	才	携帯電話番号
ふりがな 氏名	女	平成	年	月	日生	才	
ふりがな 氏名	男	昭和	年	月	日生	才	
ふりがな 氏名	女	平成	年	月	日生	才	
ふりがな 氏名	男	昭和	年	月	日生	才	
ご意見 ご要望	女	平成	年	月	日生	才	

FAX 0897-55-7242 (石鎚神社 矢野忠臣)

ホームページアドレス <http://www.ehimeshinsei.net/>